

ライフデザイン通信

平成30年度 信州大学男女共同参画セミナー・FD研修を 開催しました！

平成30年11月14日(水) 株式会社ファミリーエ代表取締役社長 徳倉康之氏を講師にお迎えし「ライフデザインと働き方～イクボスの必要性～」と題し、講演いただきました。

徳倉先生はお子様生まれたときに、勤務医として働く奥様と、お互いのキャリアや働き方を相談し、自身が育児休業を取られています。その後2人のお子様生まれたときにも育休を取得されています。そうした経験は働き方や意識に大きな変化を生み、家庭に重きを置き、より効率的な働き方をすることで、業績にも連動していったそうです。

冒頭のアイスブレイクでは、「現在の自分」と「20年後の自分」を想像しながら、8項目(仕事、お金など)の中で優先順位をつけていくというワークを行いました。隣の人とお互いのシートを見せながら話す時間も設けられ、会場は大いに盛り上がりました。

多くの人は、“現在”と“20年後”の優先順位に違いがみられ、また一人ひとりの順位付けも少しずつ違うことがわかりました。価値観は変化していくものであるということ、思い描くライフデザインは多様であることを実感する機会となりました。

また、「イクボス」とは、部下個人の能力だけでなく、制約条件(育児・介護等)、価値観に配慮しながらマネジメントし、多様な働き方を有効に活かしていく新しい「マネジメントの手法」であると話されました。

参加いただいたイクボスのみなさまの意識に、どのような変化をもたらすのでしょうか？セミナーには、113名の方に参加いただきました。ありがとうございました。

アンケート(回収率85.0%)結果

回答者 教員：16.8% 職員：35.4% 学生：37.2% 学外：10.6%
評価 「とてもよかった」「よかった」=全体の93.8%



コメント(自由記述から抜粋)

学生

就活はしたがまだ仕事を選ぶ基準はライフデザインよりもキャリアデザインが重視だった。講演を通して、長く働き続けるためにライフデザインを考えることが大切だと学んだ。今後はもっと自分の人生、生き方を考えながら働き方を選んでいきたい。

学生

私は学生で働いた経験がないため、マネジメントについてイメージしにくいのですが、業務分担の指示の際に、価値観などを「全部受け入れる」のではなく「受け止める」ことが大切という言葉覚えておきたいと思いました。

教員

現実として学びとなった。自身のライフデザインと働き方にはズレがあることを再認識した。働き方の制約があっても働ける環境が整備されることを望みたい。また、個人の意識の持ち方も重要であり、省みていきたい。

教員

能力レベルだけでなく、制約条件・部下の価値観も取り入れた新しいマネジメントの話が素晴らしかったです。評価ポイントの図の話は信大でもぜひ取り入れてほしいです。

職員

ワークライフバランスは組織の問題であることを再認識した。

工学キャンパスにおける男女共同参画の取組み

工学部では女子学生が快適なキャンパスライフを送ることができるよう、独自の取組みを行っています。今回は10月に入居開始となった女子寮と、オープンキャンパスで開催されているガールズセミナーについて取材に行ってきました！

女子寮生に聞いてみました

女子寮一期生となる二人にお話を聞くことができました。

左：廣澤美帆さん（建築学科3年生）
右：浅野恵生さん
（電子情報システム工学科3年生）
※3年次からの編入



インタビュー

関 利恵子先生
（意識啓発部門長）

Q. なぜ寮に入ろうと思ったんですか？

浅野 前は自宅から通っていたんですが、遠くからの通学で大変でした。寮の方が安いし、朝もゆっくりできますね。通学で無駄にするのはもったいないですよ。

廣澤 1年生の時はこまくさ寮に入っていました。工学部でも寮に入りたかったけど、当時は女子寮がなかった。これから“計画が始まるよ”というときに建築学科に声がかかったんです。自分が住もうとする場所の改修に関われたことはラッキーでしたね。

素晴らしいながら、廣澤さんは用意してくれていた図面を手に、当初の設計から改善した箇所などを丁寧に説明してくれ、その姿はとてもイキイキしていました。



Q. 女子学生の要望に応える形で寮ができたと聞いていますが？

廣澤 私が1年生の時にアンケートがあって、その要望がかなった形と聞いています。それまでの工学部って、女子は絶対「アパート」ってことじゃないですか！？それって逆にすごいな、と感じますね。

談話室にテレビが欲しいと話さ浅野さん。これからは暮らしやすい寮になるよう、要望していくことができるとのこと。まだ入居二週間程度とあって（取材当時）、寮生同士の交流の機会はないが、これからハロウィンやクリスマスに女子会をやりたいね、と盛り上がっていました。

工学部オープンキャンパスでは、“ガールズセミナー”が開催され、多くの高校生が参加します！

ガールズセミナーは約5年前から始まり、工学部の教員や女子学生が一緒になって工学部の魅力を高校生たちに伝える場となっています。

工学部機械システム工学科4年の大沼真実さんが今年10月に開催されたガールズセミナーの様子をレポートしてくれました。



今回は、大学生8人、高校生約25人。さらに親御さん10名くらいの参加がありました。初めに自己紹介タイムがあり、大学生が一人ひとり自分の大学生活の写真を貼り付けたスライドを用いて、理系女子大生の大学生活を紹介しました。

私は、「世界で活躍する自動車のエンジニアになることを目標に機械システム工学科に進学し、その目標を達成するために何をしてきたのか」について、留学や海外でインターンシップを行ったときの写真を用いて話を進めました。

また、自己紹介の冒頭では、機械システム工学科でどんな勉強をしてきたのか、今研究室に配属されて何の研究を行っているのか、そして機械システム工学科の男女比についてもお話ししました。同期が100人いてそのうち5人しか女子がいないというお話をしたとき、親御さんたちが目を見開いて驚いていました!!!



その後のフリートークでの、女子高生からの質問

- いつ受験勉強を始めたか
- 医療器械の開発をしたいが機械システム工学科でそのような研究はしているのか
- 推薦入試の口頭試問はどんな問題ができるか

女子高生の親御さんからの質問

- 大学では寮に入ったほうが良いか
- 一人暮らしでご飯はどうしているのか
- 実家から通っている人はいるか
- 女子が少ないけど大丈夫か

大沼さんからのメッセージ

高3の夏、わたしはガールズセミナーに参加して信大工学部への進学を決めました。私のようにガールズセミナーをきっかけに工学部へ進学する女子高生を増やしたいという想いで、今は年に2回工学部のオープンキャンパスで開催されるガールズセミナーに大学生として参加しています。私が高校生の頃に参加したガールズセミナーは、女子大生5人に対して女子高生が6人というとても小規模なものでした。しかし年々盛り上がりが増し、今では50名以上の女子学生が集まります。理系女子学生の増加とガールズセミナーの効果を感えています。卒業後も工学部のOGとしてガールズセミナーに参加し、日本の理系分野における女性社会進出度向上に貢献していきたいと考えています。

『研究補助者制度』利用者インタビュー

～平成29年度における本学の研究補助者制度の実績が、女性教職員の在職比率向上に向けた注目される取組として、国立大学評価委員会より評価を受けました～

研究補助者制度とは出産、子育て、または介護などのライフイベントと研究活動の両立を支援するため、研究補助者を配置する制度です。研究補助者にはできるだけ本学の学生を採用し、将来のキャリアパスに繋がるよう配慮しています。

女性研究者等支援部門では、「研究補助者制度」を支援の必要な皆さんにご利用いただくために広報活動を行っています。今回は、研究補助者制度を利用なさっているお二人の先生にお話を伺いました。

この制度を利用し始めたきっかけは、お二人とも、同じ学部内で利用されていた同僚の研究者の方からのご紹介ということでした。



医学部保健学科
上原 文恵先生

お子様の年齢：6歳（小学1年生）
5歳（保育園年中）

Q. どんなことを学生に頼んでいますか？

A. 私はだいたい2年生に補助者をお願いしています。その頃は、あまり研究については授業でも触れていないので、私の方でいくつか文献を検索して、準備して、学生に渡して簡単にレビューしてきてください、とお願いしています。最初は文献のまとめ方もわからないので、部屋に集めて指導しながらやってもらっています。

Q. 学生はどんな反応をしていますか？

A. 学生も非常に勉強熱心ですね。論文を読むことはまだ勉強していないので、新鮮な感覚はあると思います。廊下とかで会うと「次の文献はまだですか？」と声をかけてくれます。

3年生になり、看護研究の授業が本格的に始まると、「(やってきたことが)繋がりました」と声をかけてくれて、非常に嬉しく思います。

写真左 手前：上原先生 奥：深澤センター長
写真右 手前：高崎先生（女性研究者等支援部門長）
奥：佐々木委員（女性研究者等支援部門）



経法学部 濱田 新先生・
補助者 経法学部2年
志村 美樹さん

お子様の年齢：5歳（保育園年長）

Q. 研究補助者の仕事を経験して、志村さんのキャリア選択に何か影響はありましたか？

A. 影響、とまではないですが、「この論文集めてきて」とお願いされる量が毎回割と多い量なので、研究者ってやっぱりこんなに大変なんだ、というのが素直な感想です（笑）

キャリアとは少し違いますが、資料室の使い方や論文の検索のやり方が学べたので、自分のゼミの発表の時にも役立つかなと思いました。

Q. 何か制度への要望はありますか？

A. 私自身いい制度だと思っているので、周りの先生にもお話したら、「そんな制度あったの」といわれて、残念だなと思います。全体メールもまわってはいるんですが、大量のメールに埋もれてしまうのではないのでしょうか。もう少し良いPRがあればいいと思います。

インタビューの声

短い時間でのインタビューでしたが、ライフイベントと研究活動の両立について、先生方が困っていたことや疑問に思っていたことを直に知るよい機会となりました。お二人とも共通して、同じ状況の方との情報交換ができたなら嬉しいとのこと。インタビューの中で、困りごとを解決する方法も見つかりました。ひとりひとりが抱える課題が、同じ境遇の人たちと話すことで意外と簡単に解決するのでは、と感じました。また、研究補助者制度の周知方法について、紙媒体で行うのが一番目に留まりやすいのでは、とのご意見をいただきました。

これまでの制度利用者数（人）

	H23年度 ※後期のみ	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
女性	12	26	26	24	24	24	25	21
男性	6	10	8	2	5	2	1	2
合計	18	36	34	26	29	26	26	23

■平成30年度(10-3月期) 研究補助者利用者が決定しました

本学の研究者が育児や介護等のライフイベントと研究活動を両立できるよう、平成30年度(10-3月期)も研究補助者制度の利用希望者を募集し、厳正な審査の上、利用者を決定しました。

選考結果 利用者12名(女性11名、男性1名)

平成30年度(4-9月期)利用者の声

この制度は、研究を進めるにあたっての実質的な作業を行うことの負担軽減だけではなく、心理的な負担感の軽減につながっていると実感しています。

この制度が、これから乳幼児の育児をされる方、介護に入られる方の様々な負担感を軽減し安心感を促進することのできる制度として位置付けていくことを願います。

■平成30年度男女共同参画講義 「キャリアビジョンと男女共同参画」を終えて

小平選手等多くのゲストスピーカーを含め、理学部・教育学部・経法学部・医学部・工学部・全学教育機構といったバラエティに富んだ先生方による全14回にわたる授業から学んだことを、学生たちが自身の言葉に変えて発表するプレゼンテーションを最終日に行いました。

“女人禁制”の世界遺産に着目した発表があるなど、学生一人一人が身の回りのことをジェンダーの視点でとらえる機会となったことを実感しました。

学生(Yさん)の感想

僕は教員を目指していて、ジェンダーとか男女共同参画ということを理解したいと思い受講しました。授業の内容は、自分の知っていた知識よりも、最近の進んだ話や、「ロールモデルが少ない」という話は考えてみれば確かに…という感じだったので、得ることは大きかったですね。ジェンダーバイアスの話などは、自分の身に覚えのあることもありました。自分がここで学ぶことによって、将来自分の生徒に教えられるかなと思います。

■女性事務職員を対象とした「女性リーダー研修」を開催しました

平成30年8月24日(金)一般社団法人日本経営協会の野村麻記子氏を講師に迎え、30代から40代の女性主査・主任が参加し、コミュニケーションスキルやコーチングスキル習得のためのグループワークなどを行いました。



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

夫、長男、長女、二男の5人家族です。子ども達は共働きの為それぞれ7か月、4か月、11か月から保育園に通っています。私の実家は遠く、すぐに来てもらうこともできず、夫の実家も忙しい為、松本市のファミリーサポートや個人でベビーシッターをお願いしていました。特にベビーシッターの方にはとてもお世話になり松本の



おじいちゃん、おばあちゃんのように子ども達は会いに行けるのを楽しみにしている様子です。

子ども達が病気をした時には事情を話して他の先生に仕事の引継ぎをしていただき迎えに行かせてもらっていていつも感謝して

山田 利恵子 先生 | 信州大学医学部 麻酔蘇生学教室



家族構成

夫、長男(7歳)、長女(4歳)、
二男(2歳)

あなたのリラックス方法は？

買い物途中の時間があつたとき
コーヒーを買って帰る時間

います。さいわい子ども達はあまり熱を出したりせずに小学校、保育園に通っていますがこれから寒くなってくるので風邪を引かないように気を付けています。

3人とも毎日とても元気いっぱいでお母さんの方がついていけなくなることもあり日々負けないように頑張っています。これからの成長を楽しみつつ一緒に頑張っていけたらいいなと思います。



次回はこの方! 鈴木 真依子先生 医学部麻酔蘇生学教室

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

スプレ

信州大学 スプレ

検索

教育学部分室

〒380-8544

長野市西長野 6-口
内線 831-4018

工学部分室

〒380-8533

長野市若里 4-1-17
内線 821-5693

農学部分室

〒399-4598

上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室

〒386-8567

上田市常田 3-15-1
内線 841-5358

